



各界専門家による賃貸経営アドバイス

USAGIの視点

サステイナブル建築に向けての動き

2008年7月1日発行

第126号

一級建築士 田丸 善三

洞爺湖サミットでの先進国の主要な議題の一つは、地球の温暖化の防止、明確なCO₂の削減でしょう。そして、2008年5月改正省エネ法が参議院を通過し詳細な規制は政令で定められますが少なくとも来年以降の新築建物は小規模な建物でもCO₂削減の規制を受ける事になります。

さて、環境省は6月24日、住宅の断熱性能を向上させる団体「エコリフォームコンソーシアム」の設立総会を都内で開きました。メンバーは学識経験者や建材業者、住宅業界関係者で代表幹事に坂本雄三東大教授が就任しました。ここではリフォームに向け既存住宅の特に空調効率を上げ京都議定書に基づきCO₂排出量削減に貢献する事を目指します。コンソーシアムでは、窓や壁を改修して住宅の断熱性能を高めるリフォームをエコリフォームと定義する。今後既存住宅をお持ちの方に目に見える形でエコリフォームを推薦しいろいろな取り組みからCO₂の削減を目指すということです。

東京ビッグサイトでは5月21日～23日まで「建築リフォーム&リニューアル展」が開催されました。やはりテーマは環境とCO₂削減です。ここではフィルム状のアモルファス太陽発電が目を引きました。厚さ1ミリのフィルム状の膜で窓や屋根などを覆う事で従来の10分の一程度の加重で済み10キロワット以上程度の発電能力から計算にあってくるとの説明でした。富士電機システムズのFWAVEという商品です。もう一点はマルチコート「ナノ」と呼ばれる商品で複数のメーカーが製作していますが(住友3Mを紹介します)、紫外線の99%赤外線90%をカットし酷暑時冷房温度を5度下げるとされています。今後は省エネ改修促進税制など家主にとっても価値のある改修でCO₂削減に貢献できるようになってくると思います。

さて、洞爺湖では数日後にサミットを迎えますが、北海道占冠村にある大リゾート、アルファリゾート「トナム」にあるタワーとよばれる36階建ての高層ホテル棟ではCO₂の削減を目指し外断熱への大改修工事がホテル営業をしながら進められています。従来は内断熱で施工されており極寒時-30℃～酷暑時+30℃という極端な気温差でコンクリートやサッシの伸縮による接合部の痛みは想像を超えた物となっており、そのため漏水など大改修が必要でした。今回は気候風土の似たカナダ製の後張り外断熱工法での改修で通年度28%の空調負荷の削減と躯体保護を両立させるねらいです。CO₂の削減というだけでなく住環境の改善、暮らしやすさ住みやすさの追求という意味で外断熱は他の断熱方式より勝っています。私も今年には入り2件の共同住宅を外断熱で設計いたしました。改修工事で外断熱に出来る工法も色々開発されてきました、興味のある方は是非「学生ハウジング」までご一報下さい。